

令和3年9月10日

保護者 様

伊達市教育委員会教育長

「福島県非常事態宣言」の延長に伴う新型コロナウイルス感染拡大防止
の徹底について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けてのご協力をいただき、ありがとうございます。保護者の皆様からの速やかな情報提供が、現在、本市立小・中学校における新型コロナウイルス感染拡大防止につながっております。

さて、福島県における非常事態宣言が令和3年9月30日（木）まで延長されたことを踏まえ、下記により各小・中学校で適切な感染症対策を行った上で学習活動を実施いたします。

つきましては、ご家庭におきましても引き続き家庭内感染防止の徹底にご協力をお願いいたします。

記

1 延長期間 令和3年9月13日（月）～令和3年9月30日（木）

2 留意点

(1) 学校における感染症対策

- これまで行ってきた基本的な感染症対策（3密の回避、マスクの着用、手洗い等）を継続して実施します。
- さらに、重点的に感染症対策に取り組めます。

(2) 家庭における感染症対策

- 発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状があり、普段と体調が少しでも異なる場合には、自宅で休養させてください。また、同居の家族に同様の症状が見られる場合もお子さんの登校を控えさせてください。

そのような場合は直ちに学校へ連絡をお願いいたします。出席停止扱いとなります。

- 3密（密集・密接・密閉）や特にリスクの高い5つの場面（裏面参照）を回避してください。
- マスクを適切に着用してください。
- 家族全員で感染予防に努めてください。

学校で特に重点的に取り組む感染症対策

- 発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状があり、普段と体調が少しでも異なる場合には、自宅で休養させる。同居の家族に同様の症状が見られる場合も登校を控えさせる。
- 3密（密集・密接・密閉）や特にリスクの高い5つの場面を回避する。
- マスクを適切に着用させる。

「マスクの有効性について」

福島県立医科大学総合内科・臨床感染症学講座教授

公益財団法人仁泉会北福島医療センター総合内科・感染症科 山藤栄一郎氏による
一般的なマスクでは、不織布マスクが最も粒子除去能力が高いとされています。顔に合ったサイズの不織布マスクの針金部分を曲げて、鼻の形に合わせてフィットさせ、プリーツを顎まで覆って肌とマスクの隙間を最小限にすると効果が高まります。非同居者と接触するときには「不織布マスクをしていないときに、声を出さない」を意識してください。

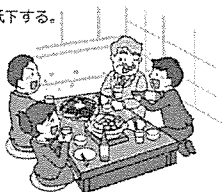
- 教室内は常時換気を行う。
- 児童生徒の間隔は1 m以上を目安に最大限の間隔をとるよう座席を配置する。
- 部活動は、個人や少人数での活動とし、平日・週休日ともに1時間程度の活動とする。準備・片付け時にはマスクを着用する。
- PTA等と連携しつつ、保護者の理解と協力を呼びかける。

リスクの高い5つの場面

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に教席などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



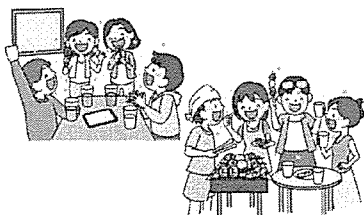
場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



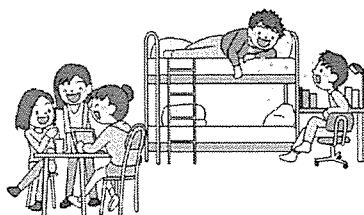
場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

